

水

二の堰は、清流寒河江川から水を取り入れています。その水は市内の広範囲に流れ、長岡山の東南部の水田730haの水田を潤しています。今から約600年前の昔、寒河江城の三の丸に水を引くために掘削されたと伝えられています。その中心となるのが二の堰親水公園です。



農業



寒河江は大昔から、湧き水による自然の恵み豊かな地でした。稲作の伝来とともに寒河江川の水を灌漑用水として利用するために、二の堰を始めとした用水堰が開削されました。この用水を利用し新田開発が進められ、今日の寒河江の農業の礎を築いてきたのです。

歴史

二の堰は、古くは八鯀堰と呼ばれていました。南北朝時代の大江氏8代時氏・9代元時の時代に寒河江城の三の丸に水を流すために開削されたと伝えられています。以後、今日まで幾多の歴史を刻んできました。今なお、近隣には大江氏に関する史跡も数多く残っています。



蔵

二の堰親水公園の蔵は、山形市漆山の資産家半沢家が明治14年9月、明治天皇の東北巡幸の際に、行在所として新築したもので、天皇に御少休いただくために玉座を封じてお待ち申し上げたと伝えられています。

親水公園造園に際し、寒河江市の文化、産業の一助にならんことを願い本市在住の角田家より寄贈されました。



水辺エリアを見守る「カッパ」像 (伊藤 励 作)



現在公園管理棟として利用されている蔵の正面入り口



水辺エリア：夏場の休日は水遊びの家族連れで賑わいます。

水と農 歴史と健康 光して蔵

二の堰親水公園

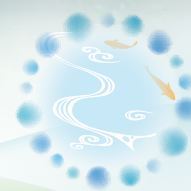


自然水族館入口



水上あずま屋

二の堰親水公園活性化推進協議会
グランドワーク二の堰



健康

人生百年が声高に叫ばれる現在、手軽に健康寿命を高めることを企業や社会はもちろん誰もが願っています。

四方の山々を望み、水と緑と歴史に彩られた二の堰親水公園に集い、憩い、散策をすることで、手軽に健康寿命を高められます。



水路に沿って設けられた遊歩道：散策やウォーキングを楽しむ人達の憩いの場になっています。